

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 スキルアップ研究会

テーマ 特別支援教育ならではの授業、教材づくりについて考える
～「学びたい」を支える授業を目指して～

取組のポイント・成果

○取組の内容とポイント

当グループは、同じ学校の職員で構成されている。昨年度手探りの中で、オンライン授業に取り組むうえでの課題を解決するべく新設したグループであるが、今年度は対面授業が中心となったため、グループ名を変更し、オンライン授業に限らないスキルアップを目指すこととした。

メンバーの経験年数や担当児童の実態は異なるが、目の前の児童生徒にとってよりよい授業を実施したい、目の前の課題を解決したり教師としての引き出しを増やしたりしたいという共通の願いをもっている。そこで、今年度もメンバーが希望した研修を受講し研鑽することで、それぞれのスキルアップを目指したいと考え、実践した。

○活動や内容の実際

- ①7月28日(水) 13:30～16:30 「絵本読み語り講座」
おおきな木店長 杉山三四郎氏 杉山千恵子氏
羽島特別支援学校 体育館
- ②7月30日(金) 9:00～11:00 オンライン研修「性教育について」
日本福祉大学 准教授 伊藤修毅氏
羽島特別支援学校 体育館
- ③随時
グループ内実践報告会



○成果

- ①7月28日(水) 13:30～16:30
「絵本読み語り講座」 杉山三四郎氏 杉山千恵子氏
研修内容：体操、ことばの実験、ことば遊び、絵本ライブなどを通じて表現力を磨く
・杉山氏の研修のまとめ

新しい絵本や人気の絵本の紹介、抑揚や表情をつけて読む読み方、曲を付けて歌ったり、小道具を使って一緒に絵本の世界を楽しんだ。絵本を通じて子どもと一緒に遊び学ぶことができる。本の読み方に決まりはない。子供の反応を見ながら自分も楽しみながら読んでほしい。

・参加者の感想

三四郎氏の相手をぐっと引き込む表現力に感動した。本を選択するとき、深く考えるのではなく完成で選ぶことの大切さを感じた。読み方次第で感じが変わることがわかった。読み聞かせの大切さを改めて感じた。自分自身が楽しまなくてはいけないと思った。

- ・その他

職員が絵本の世界に引き込まれ、楽しむ様子が印象的だった。メンバー以外の職員の参観も多数あり、読み聞かせの研修にニーズがあることが分かった。

②7月30日（金）9：00～11：00

オンライン研修「性教育について」 日本福祉大学 准教授 伊藤修毅氏

研修内容：特別支援学校における性教育について、質疑応答

- ・伊藤氏の研修のまとめ

障害者にも性教育を受ける権利があり、学校には性教育をする義務がある。国際的に確認されている「性教育」は、「純潔教育」や「禁欲教育」ではなく、「包括的セクシュアリティ教育」である。多様性の尊重の強化、LGBT から SOGI へ、マスターベーションについて、ふれあいについて。「自分の命や体を大切に、健康に生活できる力を育てます。」「人とのかわりを通して、心豊かに生活できる力を育てます。」という学校教育目標を実現するためには「包括的セクシュアリティ教育」が欠かせないとも言える。ぜひこの目標を大切に、追求してってください。

- ・参加者の感想

性教育に関する考え方が変わった。幼少期から性教育を行いたい。距離感に対する考え方が分かった。質問に対する回答が非常にわかりやすかった。すごく勉強になった。

- ・その他

メンバー以外に高等部の職員の参加が非常に多かった。参観者の感想に「小・中・高の職員全員に聞いてほしい。」「保護者にも聞いてほしい。」「毎年実施してほしい。」という回答が多数あった。それぞれの価値観の違いから校内や家庭との連帯に課題を感じている職員が多いということが分かった。



③随時 グループ内実践報告会

- ・研修内容まとめ

それぞれ課題に応じて資料を活用し、教材や授業研究の報告会を小グループで行った。

- ・活動例

自立活動でゆれる活動の導入として、絵本「ぶ～らんこ」を活用した授業の導入などを検討した。資料として購入した教材集を活用して、対象児童に合った算数の教材製作を行った。

- ・参加者の感想

必要な教材が資料としてあり、研修を活かして有効に活動することができた。

今後の課題

○研究の課題

研修自体は構成員のニーズに合っており、満足度は高かったが、講師の選定・依頼に困難さがあり当初の予定と変更があった。事前に検討しておく必要を感じた。

○今後の方向性

構成員だけでなく勤務校の教員から、継続して研修を開いてほしいという要望を受けているので、今後も自主研修を継続して行えるように検討したい。

○還元の方法

勤務校において研修資料の共有や、資料を活用した自主研修を開催する。